

第2次、第3次救援隊ボランティアを募集します

対策本部では被災地への第2次、第3次救援隊のボランティアを募集します。第2次は22日（火）から24日（木）まで、第3次は25日（金）～27日（日）までです。

- ・救援内容は、第1次救援隊の報告を受け、検討しますが、現在は地域を回り健康状態の把握、健康相談と考えています。
- ・職種は問いません。
- ・人数が多くなった場合は、次の派遣隊に回っていただくこともあります。ご了承ください。

第1次救援隊、大勢で見送り

第1次救援隊の出発にあたり、出発式が組織部で行なわれました。出発式では藤末全日本民医連会長が「救援は長期になる。こちら岩手にも医師2名を派遣させた」とあいさつ。尾形院長から救援隊に「こちらに残る職員の思いの分も頑張ってもらいたい」と激励のあいさつがありました。続いて救援隊を代表して小野寺理事長（救援隊隊長）から「第一陣としてがんばってくる」と決意表明がありました。午前8時30分、40名近い職員の見送りの中、救援隊は元気に出発しました。



さわやかさんに乗車した救援隊

全日本民医連と同行、陸前高田市のレポート

全日本民医連藤末会長一行と佐々木組織部長、中居県連事務局員が案内も兼ねて同行、大船渡市、陸前高田市を視察しました。以下は佐々木部長からの陸前高田市のレポートです。

けた外れの被害、陸前高田市

住田町から気仙川沿いに陸前高田市に向かう。陸前高田市に入って横田地域（中心街から10キロ付近から津波の爪痕がわかる。（川沿い）

市街地に入るや今まで見たこともない光景が……。建物すべてが破壊され建物や車両の残骸の山。残った建物も窓、壁が壊れている。大船渡市とは大きく違って被害がけた外れに大きい。地元の議員（藤倉氏）、鳥羽陸前高田市長、石木陸前高田病院院長から話を聞くことができた。医療支援は今全国からたくさん支援に来てもらっているが1ヶ月後、2カ月後が不安だと言っていた。（日赤、済生会、浜松市から保健師など）救急車も所沢、習志野市、市川市が来ていた。

住田診療センター

県立陸前高田病院の職員が避難し生活している。家族とも離れ離れ。高田病院は4階まで津波が押し寄せ、屋上やエアーマットにつかまり助かった。多くの職員、入院患者が津波で流された。住田診療センターは外来のみ、県立中央病院より応援もらい住田の避難所の診療している。電話は衛星電話のみ。